

# 俺様の安土城

百文持って遊びに来い!

④ 山折

## ⑨ 百々橋口(どどおしぐち)周辺

百々橋口道は記録に登場する唯一の城内路。当時は位の高い家臣もこの道を使ったんだって!  
室町時代に作られて信長によってここに移された三重塔や仁王門があり、何とも言えない風情。  
ここからみえる西の湖の眺めは最高! 絶好の写真ポイント!!

※奈



## お疲れ様でした!!

安土城の周りには他にも見どころいっぱい!  
佐々木六角氏の観音寺城、安土問答の浄厳院、桑実寺、佐々木源氏の沙々貴神社、西の湖などなど  
これらを見ずして安土を語るなかれ~!

女性のための近江戦国山城マップ安土班 製作  
※竹・玲・亜・和・紀・奈

編集:滋賀県教育委員会  
平成23年1月19日

③ 山折

⑧ ようやくやって来ました天主跡!  
天主台は『信長公記』によると現在の倍以上の高さがあったそう。天主跡に整然とならぶ礎石群はなぜか中央部だけ礎石がない? 元々存在せず、その理由は発掘調査を経た現在も不明とのコト。...天主は本当に吹き抜けて宝塔なるものが置かれていたのか!? 妄想を膨らませつつ、せっかくなので真ん中に立ち記念撮影でもレचनाみに礎石の傾き具合から天主は北方向に倒壊したそう。

※和



③ 山折

⑦ 演出家信長の魅せ方!  
本丸にあったとされる松皮葺(ひわだぶき)建物は、豊臣秀吉建立の内裏清涼殿と似ており、天皇のために造られた「御幸の間」があったのではという説があります。内装は金を主に用いた豪華絢爛なものだったようです。  
天正10年正月には、人々に百文ずつ徴収して中を見学させたそう。「百文もって遊びに来い」と言ったとか言わなかったとか...  
演出家信長の偉大さが見えてきます。

※紀

② 谷折



① 山折

④ 山折

① 山折

③ 山折

② 谷折

⑥ 焼けた石垣!  
『伝二の丸』と『天主台』の石垣は築城当初のまま残っており圧巻!! 天正10年6月 安土城が炎上したときの火の勢いで、いたるところに亀裂が入り赤茶色に変色しています。『伝三の丸』の石垣は落城のときに破壊されてしまったけど、積みなおされた石垣の石にも焼けあとが見られるよ(σ´▽´)σ

※玲

⑤ いよいよプライベートゾーン!  
大手から七曲道へと広く景色の良い通路を進み黒金門跡に到着。ここから城主・織田信長の居住区に突入です! 現在の玄関にあたる黒金門は黒漆塗に金の装具が使用され壮麗だったよう。現在も石垣には安土城最大の石が残っているので必見です!

※奈

④ 平成25年に発見!  
まっすぐな大手道がつかうと思われていましたが、近年の発掘調査で、突然西へ90度曲がりジグザグに折れながら登る道が発見されました!  
現在は傾斜がきついように感じますが、発掘された時はもっと緩やかだったそう。だから馬でも駕籠でも登城できたんですね!

※亜

③ 現在と過去を見比べてみよう!



伝秀吉邸復元

② 石垣の継ぎ目!  
安土城ではここでしか見れない石垣の継ぎ目も要チェック! 積み終わったところから継ぎ足して積んだため出来たものだから。ちなみに『安土城=穴太衆』と思われがちですが、実際は全国各地から大勢の石工集団が集められていたのです。

※和

① 足元に石仏!  
まずは大手道の階段を登りましょう。よく見ると『石仏』と書いた看板が数箇所に貼り付いています! 石垣や階段に転用・リサイクルされていたのです。

※玲



② 谷折

登城の心得

- ・所要時間はざっくり半刻、じっくり一刻 なので時間に余裕を持って挑むべし。 ※一刻...二時間
- ・高下駄(ヒール)履くべからず。
- ・お手洗いにア身も心も清浄にしてから登るべし。
- ・体力のない者は登り口で杖を借りるべし。
- ・蜂や蝮(特に梅雨時)に注意すべし。
- ・石段の石が不安定なところで転ぶべからず。

③ 山折